

令和2年度第1回下田市総合教育会議 会議録

開催日時 : 令和2年11月18日(水)16時00分~17時30分

出席者 :

【委員】

市長	松木 正一郎	教育長	佐々木 文夫
教育委員	田中 とし子	教育委員	渡邊 亮治
教育委員	西堀 政幸	教育委員	天野 美香

【事務局】

学校教育課			
課長	糸賀 浩	参事	和泉 多恵子
学校教育係長	平川 博巳	指導主事	檜山 和人
子ども育成係長	内田 陽久	主事	井出 涼子
生涯学習課			
課長	鈴木 美鈴	図書係長	澤地 彩
社会教育係長	金守 俊彦		
統合政策課			
課長	平井 孝一	参事	加藤 克寿
政策推進係長	本間 洋	主事	藤井 茂雅

1 開会 16:00

2 あいさつ

・市長

総合教育会議については、大きく期待している。下田市にとって、2020年は、総合計画の見直しなど、重要な年である。第4次総合計画策定後は、津波の問題であったり、人口減少の加速であったり、状況が変わっている。現在策定している総合計画では、厳しい人口減少の中のテーマを「時代の流れを力に つながる下田 新しい未来」という言葉で示した。

昨日、市町駅伝の結団式があった。駅伝は襷をつなぐといった、美しいシーンを見せてくれる。子どもたちが次の時代に襷をつなげる。その子どもたちをどのように育てるのかという大変大切な分野が教育であると思う。

教育委員会と当局と一緒に手を携えて、しっかりと未来をつくっていきたいと考えている。本日は、活発なご議論をお願いしたい。

・教育長

本日は、下田市教育大綱(案)について、協議いただく。教育大綱については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行により、平成27年4月に策定が義務化され、下田市においては平成27年12月に策定した。期間については、法律で定められていないが、概ね4年から5年と考えられている。

本日も協議いただく教育大綱は、本年度策定し、令和3年4月から施行する。大綱の定義は、内容として、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、根本となる方針を定めるものであり、詳細な施策を定めるものではないと位置づけられている。

本日は、教育大綱について、協議、調整いただき、この位置づけをしていきたい。

3 協議事項

1) 下田市教育大綱(案)について
事務局(学校教育課参事)より説明。

【質疑、意見等】

・市長

下田市教育大綱(案)の観点は4つと感じた。

普遍的な理念

時間軸上のもの(日本、世界の情勢を鑑みたもの)

過去、現在、未来といった時間軸上で前回とどのように違っているのかというもの

「開国」や「吉田松陰」といった下田の特性のもの

・田中委員

市長が話をした「時代の流れを力に つながる下田 新しい未来」はすばらしい。これは、教育の理念につながっていると考える。

そのため、人と人とのつながり、未来とのつながりといったことを大綱の中に入れていただきたい。「まちづくりは人づくり」と考えている。

いかに教育活動の中に市の予算を注入し、安定した教育が出来る方向で市長にお願いしたい。

・天野委員

「つながる」という言葉はすばらしいと思う。

子どもが未来に発信できる人になってもらいたい。そのような環境づくりは大切と考えている。子どもたちが経験できる場所が少ないため、経験できる環境をつくっていただきたい。

・渡邊委員

下田の特性ということで、開国といった言葉があったが、黒船祭にもつながってくると思う。黒船祭では玉川大学生と子どもとの交流があり今後も引き続きお願いしたい。

・市長

国際性は大切だと思う。大綱に国際的な教育といった言葉があっても良いと思う。

・事務局(学校教育課参事)

前回からの違いについては、前回の基本理念は、「開国のまちから夢をつなぐ、未来の教育と自らの仲間づくり」が教育理念であったが、これを全て否定するのではなく、これを伝えて、新しく「下田に誇りをもち、下田の未来を担う人」という理念につながっている。この中で、未来の人づくりというところが、前回からつないだ形となっている。

教育大綱は、根本である方針的なものであり、国際的な取組については、大綱を具体化する取組に全て含まれている。

・教育長

教育大綱は大まかなものであり、それを見て、下田と一致する言葉が教育大綱の中にも少し入れば良いと思う。見直しが必要なので、持ち帰り、検討する。

・事務局(学校教育課参事)

国際的な教育を連想させる言葉を入れるように検討していく。

「なぜ、このような教育大綱にしたのか」という経過を入れたい。

・市長

今の時点で描いている未来は何か。

・教育長

この教育大綱の中で考えている未来というのは、活躍できる年齢 35 歳を想定している。

その時にどのように下田に関われるか、下田だけでなく世界に羽ばたいていけるかなどを考えている。

・田中委員

下田の未来を担う人の「担う」というイメージが出てこない。

過去、現在、未来とつないでいった場合に、下田の課題に対してどのように行動していくかが薄いように思う。

・市長

未来を担うというものは、何かを入れなければわからない。

今の 2020 年の大人たちが考えて、子どもたちはこうあるべきだと提案しているもの。

ウィズコロナが続くと想定される中、ソーシャルディスタンスで、子どもたちが距離を置かなければならない時に、しっかりと心がつながっている、他人への思いやりのある子どもたちにするといいことを言うと言時間軸上で分かりやすくなる。

今考える未来の子供たちに向けた教育はこのようなものと表すと多少わかりやすい。

2020 年に作る教育大綱としてどういった未来を描いていくかである。

・事務局（学校教育課参事）

未来というと大きなものであるが、下田で学んだことを活かして、自分の夢を切り拓いていくというイメージをもっている。小中学校では、下田を好きになる、下田を誇りに思うという教育をしている。また、下田を知る活動も必要と考えている。

・事務局（生涯学習課長）

「未来を切り拓く、志を持った人」ということについて、「志」というキーワードは、表紙にあるように、指し示す姿の吉田松陰、金子重輔をイメージして作成している。彼らの時代において、大きく価値観が変わるときを切り拓いていったことをイメージして、キーワードができていく。これをしっかりと表現するべきで、今の時代に当てはめた時に、今も大きな時代の転換期で、価値観が変わる、そのようなときに子どもたちがどうやって切り拓いていくかを考えていく、その素案を作りたいという意味の中でつくられていると思う。これについては、「未来を指し示す姿の吉田松陰と金子重輔」や「志」という言葉から読み取れると考える。

・教育長

この大綱を基に、どういう学習をするかについては、教育指導要領に記載されている。また、教育の積み重ねの中で子どもたちが成長していくことを考えると、大綱をどこに焦点を当てて良いのか難しい。

大枠としての教育大綱であり、これを基に基本的な目標を具現化させたものを考えていく。

・田中委員

「未来を担う人」にどういった人を求めているのか、これは志を持った人ということにつながってくる。

言葉を審議することではないが、どういった人を求めているかをつなげていった方が良い。

・事務局（学校教育課参事）

理念を変えることに対する回答はここでは言えないが、いただいたご意見から、検討する。

・事務局（統合政策課長）

総合計画に関わってきた中で、過去、現在、未来のブロックごとに記載という書き方もある。総合計画ではそのようにしていた。

書き方については、事務局で見直しをする。

・事務局（学校教育課参事）

過去についての課題は、大綱に入れた方が良く考える。

・西堀委員

「下田を好きになり、下田に誇りをもつこと」は当たり前のことではないか。志を持つこと、下田を好きになり、誇りをもつことだけでは、何か足りないのではと思う。

また、白浜地区など、各地区の歴史を知らないのではないか。各地区の歴史のこともどこかに記載してもらえたらと思う。

・教育長

下田で様々なことを経験してみることによって、好きになる、誇りをもてるようになると考えている。

地域学習、体験学習等についてを盛り込んでいき、並行して、大綱と別に具体的な計画等を作成していく。

・天野委員

変えていかなければならないことの中に、オンラインについても考えていただき、学習できる環境を整えることも盛り込んでもらいたい。

・市長

大人たちへの教育、生涯教育、家庭教育も考えなければならないのでは考える。

「地域でしっかりと子どもたちを育てる」や「大人の教育」といった分野もあっても良いと思う。

・田中委員

下田に誇りをもっている人は、子どもの頃にもいろいろ学んでいる。

子どもが学習し、世界を見ることによって、下田でもこのような支援があるのではないかと考えられる子どもたちになってもらいたい。

・教育長

大人がというところでは、「下田が居場所になるために、特に学校段階で経験しておきたいことは」の中に、地元にいる仲間、家族、先生方、そこに「地域の人たち」が入るとつながってくると思う。

・田中委員

下田では、いろいろと取組、活動を行っているが、実際、参加が少ない。子どもたちが、様々な活動することによって、下田を磨き、下田を好きになるのではないかとと思う。

・生涯学習課長

これからの時代は、コロナ禍の関係で、世界とつながるようになり、都会に行く必要もなくなってきていると思う。

新しい時代というのは、どこに軸足を置いて、世界とつながれる。しかし、一番大切なことは、自分が生まれてきた風土や歴史を介して、自分を確立していくことが軸としてなければ世界ともつながれない。そこを積極的にアピールしていきたい。

そのようなことから、現在に寄与する総合的な生涯学習も構築していかなければならない。

・市長

生涯学習の他に、防災学習がある。教育の中に防災学習を入れても良いのではないか。

足りないところとして「地域学習」、「生涯学習」、「防災学習」を入れてもらえればと思う。

教育現場への予算化については、優先順位を見直しており、優先順位の中で、今回の重点的な予算は、 つながる、 新しい時代を切り開く、というキーワードに入ってくるかが重要である。教育委員会の事務局で、理屈をつくって予算要求をしてもらいたい。

・教育長

現在、市で予算をつけていただいている体験学習において、子どもたち、先生方からも感謝を受けている。できれば、またお願いしたい。

改めてだが、大綱については、年度内に作成する。

・事務局

本日いただいた意見を参考に、教育大綱を見直し、再度、総合教育会議にて協議をお願いしたい。次回については、日程調整の上、依頼をする。

2) 公立学校教育の現状について

事務局(学校教育課参事、指導主事)より説明

【補足】

下田市のこどもたちの学習能力については、優良と判断できる。

重大なイジメは0件と認識。問題行動としては、SNSトラブルが増えている。

教育委員へは、その都度連絡している。

【質疑等】

・市長

市として支援できるものがあれば、協力したいので、言っていただきたい。

4 その他

なし

5 閉会 17:30